

明治安田生命 子育てに関するアンケート調査を実施！

立ち足かかる「3人目の壁」 子育て世帯の9割が3人目を「望まない」か「躊躇」！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、子どものいる男女に「子育てに関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 子どもと子育て費用に関する意識（P4-10）

- 子どもを欲しいと思っても・・・「3人目の壁」の主因は経済的負担！
 - ・子育て世帯の9割が3人目を「望まない」か「躊躇」！
 - ・3人目を躊躇する要因は「教育費」と「生活費」
- 最も負担が大きい費用は「学費」。子育てに足りないと感じている金額は、月額約2.7万円
 - ・不足額を補うために、夫の「収入アップ」や「節約」を求める妻の声

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「少子化問題」について分析！（P8）

2. 「イクメン」に対する意識（P11-18）

- 育児の男女平等が浸透か！？ 20～30代女性の6割超が夫を「イクメン」と認定！
- 「イクメン評価」には男女間に価値観のギャップあり！女性が考えるNG行動は「やりたいことだけ、やりたいときだけ」！
- 「理想のイクメン」にも男女のギャップ！妻の理想は“押しつけイクメン”ではなく、“ナチュラル イクメン”！
- 「育児の対価」は年収約237.5万円。なんと、男性の約11%が「0円」と回答！！
 - ・日ごろの育児への意識や協力度合いが「育児の対価」に影響

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「育児の対価」について分析！（P18）

3. 子育ての悩みと相談したい有名人ランキング（P19-23）

- 子育てで大変なこと。女性は「精神的疲労」が男性の2倍！
- 子育ての悩みを相談したい有名人、第1位は「北斗 晶」さん！

4. 子育て中の働き方に関する意識（P24-30）

- 取得期間に課題！？ 男性の育児休暇の満足度は女性より約22ptも低い結果に！
- 子育てしながら働きやすい職場づくりには、「休暇を取りやすい職場の雰囲気」が重要

<対象者の属性>

1. 調査対象

20～59 歳の子どものいる既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2017 年 8 月 9 日(水)～8 月 14 日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,032 人

6. 回答者の内訳

(人)

	20 代	30 代	40 代	50 代	計
男性	129	129	129	129	516
女性	129	129	129	129	516
計	258	258	258	258	1,032

【目次】

1. 子どもと子育て費用に関する意識

- (1) 子どもの人数と望む理由 4 ページ
- (2) 子育て資金 8 ページ

2. 「イクメン」に対する意識

- (1) 「イクメン評価」 11 ページ
- (2) 「イクメン」の現実 13 ページ
- (3) 「理想のイクメン」 16 ページ
- (4) 育児の対価に対する男女の意識 18 ページ

3. 子育ての悩みと相談したい有名人ランキング

- (1) 子育ての苦勞と悩み 19 ページ
- (2) 悩みを相談したい有名人ランキング 22 ページ

4. 子育て中の働き方に関する意識

- (1) 育児休暇の取得状況と満足度 24 ページ
- (2) 両立支援と職場環境 27 ページ

1. 子どもと子育て費用に関する意識

(1) 子どもの人数と望む理由

子どもを欲しいと思っても・・・
「3人目の壁」は経済的な負担が要因にあった！

- 厚生労働省が2017年6月に発表した人口動態統計で、1人の女性が生涯に産む子どもの数（合計特殊出生率）が1.44となり、出生数も1899年に統計を取り始めてから初めて100万人を割り込むなど、少子化が深刻化するなか、子どものいる男女に「さらに子どもが欲しいかどうか」を聞いてみました。
- 全体では「欲しいと思う」が21.9%、「欲しいが難しい」が24.1%、「欲しいと思わない」が54.0%となり、「欲しいが難しい」と「欲しいと思わない」との合計が8割近くにのぼる結果となりました。
- 子どもの人数別で見ると、2人目の子どもについては、「欲しいと思わない」が27.9%に留まった一方、3人目については、その割合が67.1%まで大きく上昇しています。また、3人目を「欲しいが難しい」と回答した人も24.3%おり、「欲しいと思わない(67.1%)」との合計では、実に9割以上にのぼり、「3人目の壁」は極めて高いことがわかりました。
- 理由をみると、「欲しいと思わない」と回答した人では、「身体的・年齢的に難しいと思うから(57.5%)」がトップでした。一方、「欲しいが難しい」と回答した人では、「生活費がかかるから(59.0%)」がトップ、次いで、「教育費がかかるから(54.2%)」と、経済的な要因がハードルとなり、子どもをさらに欲しい気持ちはあるものの、あきらめる人が相当数いることがわかりました。
- 加えて、「欲しいが難しい」と回答した人について、子どもの人数別に理由をみてみると、2人目から3人目では、「教育費がかかるから(2人目44.0%⇒3人目60.5%)」「生活費がかかるから(2人目48.0%⇒3人目64.7%)」と大きく上昇しており、経済的な要因が「3人目の壁」の主因であることがわかりました。

■さらに子どもを欲しいかどうか（欲しい子どもの人数別）

	全体	欲しい	欲しいが難しい	欲しいと思わない
全体	1,032（人）	226	249	557
	100.0（%）	21.9	24.1	54.0
2人目が欲しい	383（人）	176	100	107
	100.0（%）	46.0	26.1	27.9
3人目が欲しい	489（人）	42	119	328
	100.0（%）	8.6	24.3	67.1
4人目以上が欲しい	160（人）	8	30	122
	100.0（%）	5.0	18.8	76.2

■ 「さらに子どもを欲しいが難しい」「さらに子どもを欲しいと思わない」人の理由

(欲しい子どもの人数別)(複数回答)

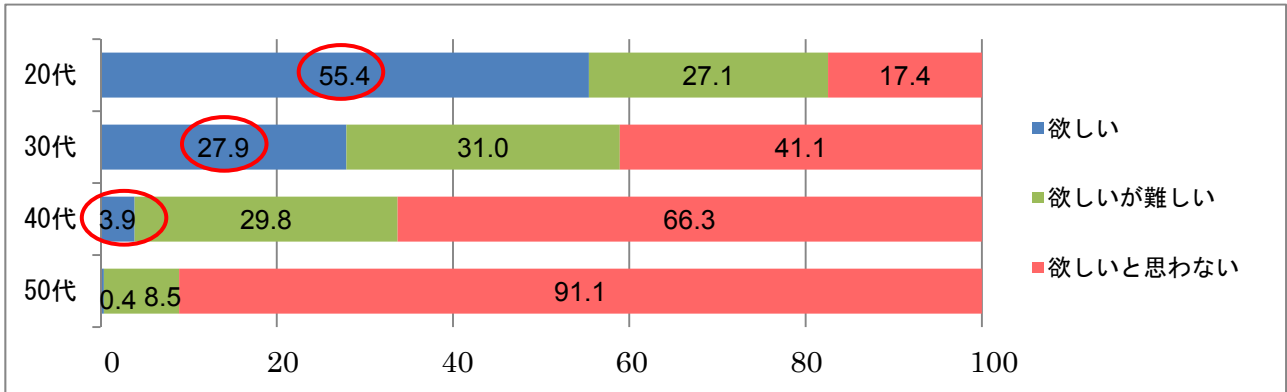
(%)

	子どもの人数	教育費がかかるから	生活費がかかるから	自由な時間がなくなるから	仕事との両立が難しいから	保育園探しが大変だから	ストレスが増えるから	身体的・年齢的に難しいと思うから	配偶者が望んでいないから	子育てに配偶者の協力が得られないから	その他
欲しいが 難しい (%)	全体	54.2	59.0	10.0	12.4	2.4	4.8	43.0	12.9	3.6	4.0
	2人目	44.0	48.0	9.0	10.0	2.0	4.0	47.0	10.0	3.0	5.0
	3人目	60.5	64.7	10.9	16.8	3.4	5.9	37.8	14.3	5.0	3.4
	4人目以上	100.0	100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
欲しいと 思わない (%)	全体	38.1	36.3	12.9	7.2	0.7	8.4	57.5	8.4	4.1	8.3
	2人目	23.4	21.5	11.2	3.7	0.9	15.0	59.8	13.1	8.4	5.6
	3人目	43.3	40.5	14.3	7.9	0.3	5.8	57.0	7.0	2.7	8.2
	4人目以上	47.4	52.6	10.5	10.5	5.3	0.0	47.4	15.8	0.0	10.5

【参考】

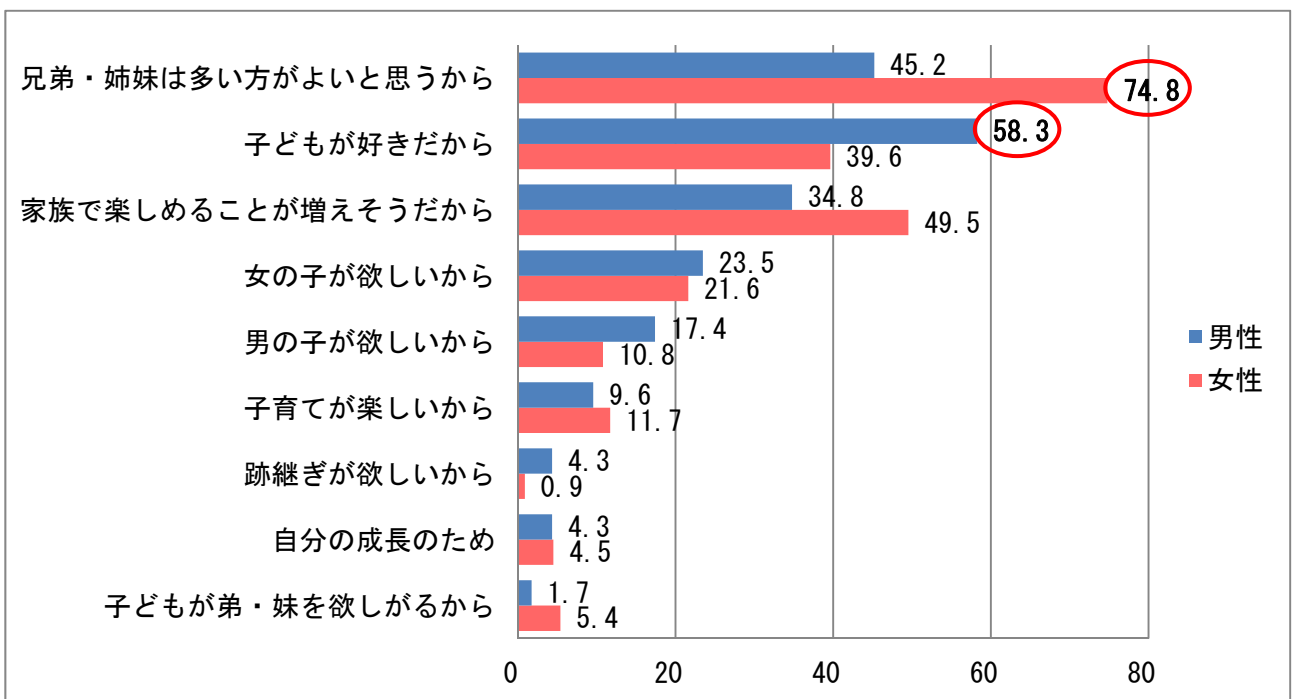
○「さらに子どもが欲しいかどうか」を年代別でみると、「欲しい」は20代が55.4%、30代が27.9%、40代が3.9%という結果になりました。

■さらに子どもが欲しいかどうか(年代別) (％)



○欲しい理由をみると、男性の1位は「子どもが好きだから」で58.3%、女性の1位は「兄弟・姉妹が多い方がよいと思うから」で74.8%という結果になりました。

■さらに子どもが欲しい理由 (複数回答) (％)



○「さらに子どもが欲しいかどうか」について、地域別で見ると、保育園不足などが影響しているのか、「さらに欲しい」という回答は、東京圏（東京、千葉、埼玉、神奈川の4都県）が17.5%で最下位となりました。

■さらに子どもを欲しいかどうか（地域別） (％)

	欲しい	欲しいが難しい	欲しいと思わない
北海道	31.1	24.4	44.4
東北	20.3	18.8	60.9
関東（東京圏除く）	31.8	25.0	43.2
東京圏（東京、千葉、埼玉、神奈川）	17.5	23.4	59.1
中部	19.7	26.0	54.3
近畿	25.8	24.2	50.0
中国・四国	18.7	20.6	60.7
九州・沖縄	26.6	28.4	45.0

1. 子どもと子育て費用に関する意識

(2) 子育て資金

最も負担が大きい費用は「学費」 収入アップや公的給付の充実を求める声が約8割！

- 「子育てにかかるお金のうち、負担が大きいと感じているもの」について聞いてみました。最も負担を感じるものは「学費」の44.5%がトップ、「習い事やお稽古事の費用（25.0%）」「学習塾・家庭教師の費用（23.1%）」と続き、教育費が最も家計を圧迫していることがわかりました。
- 次に「子育てで足りないと感じている金額」について聞いてみたところ、月額27,097円不足しているという結果になりました。不足額を補うために必要なものとしては、「もっと自身の収入が必要」と考える人が79.7%と全体の約8割を占め、次いで「もっと公的な支給が必要だ」と考える方が70.3%という結果になりました。「賃金の向上」や「国や地方自治体の支援」を望む声が多いことから、少子化問題の解決には、ワーク・ライフ・バランスの改善だけではなく、やはり経済的な対策を講ずることが重要と言えそうです。現在、政府では「人づくり革命」を掲げ「教育無償化」等の検討が進んでいますが、その動向にも注目が集まっています。
- また、男女別にみると、「もっと配偶者の収入が必要だ」と考える人は、男性が41.3%に対し、女性が75.8%となりました。さらに「もっと配偶者の節約が必要だ」と考える人は、男性が35.3%に対し、女性が56.2%となりました。夫には妻から厳しい要求が課せられている状況が伺えます。

～チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

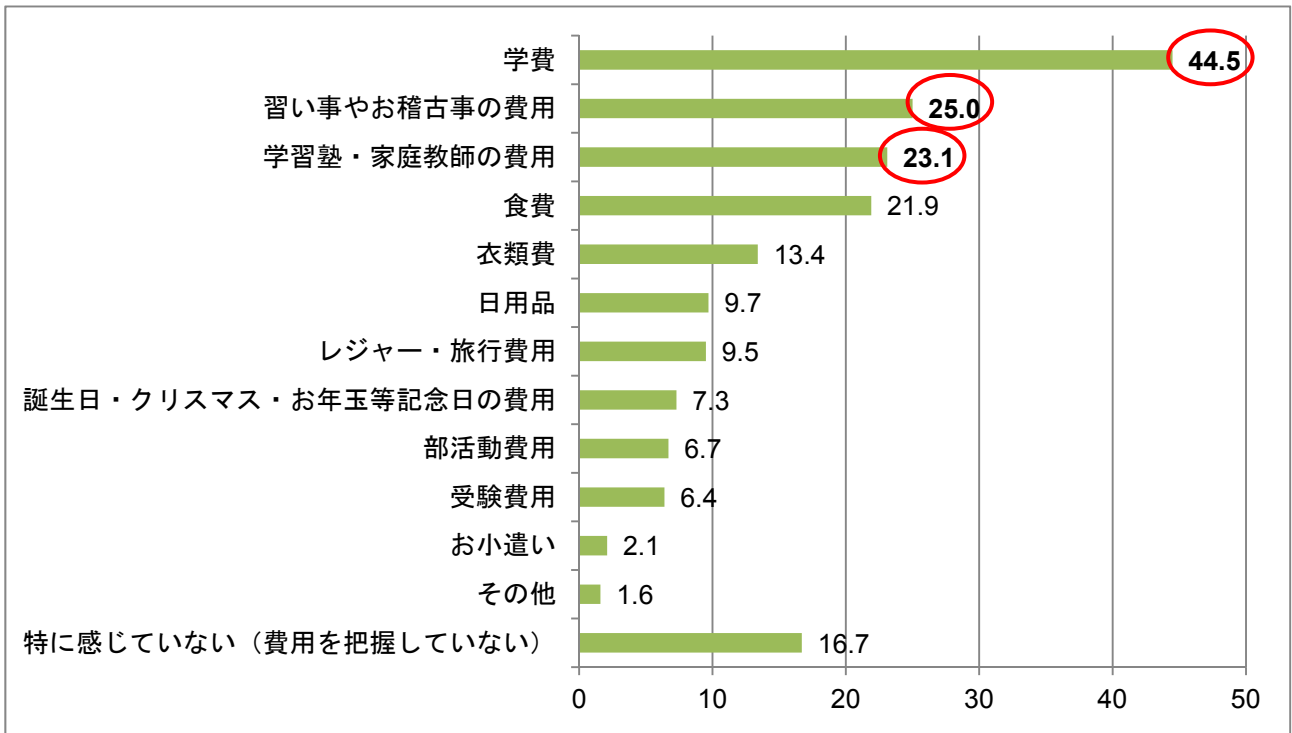
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●少子化問題について

「3人目の壁」の最も大きな理由が、経済的負担というのは、近年の教育費の増加から考えればうなずける結果です。一人ひとりの所得の伸びには限界もあるため、政府にはまず、保育所の整備や税制改正を通じ、両親がより共働きがしやすくなるような環境整備が求められます。また、高齢世代に手厚く、若年世代に厳しいという日本の社会保障制度も見直しが必要とされると思います。少子化問題の解決に向けた政府の本気度が試されていると言っても過言ではありません。

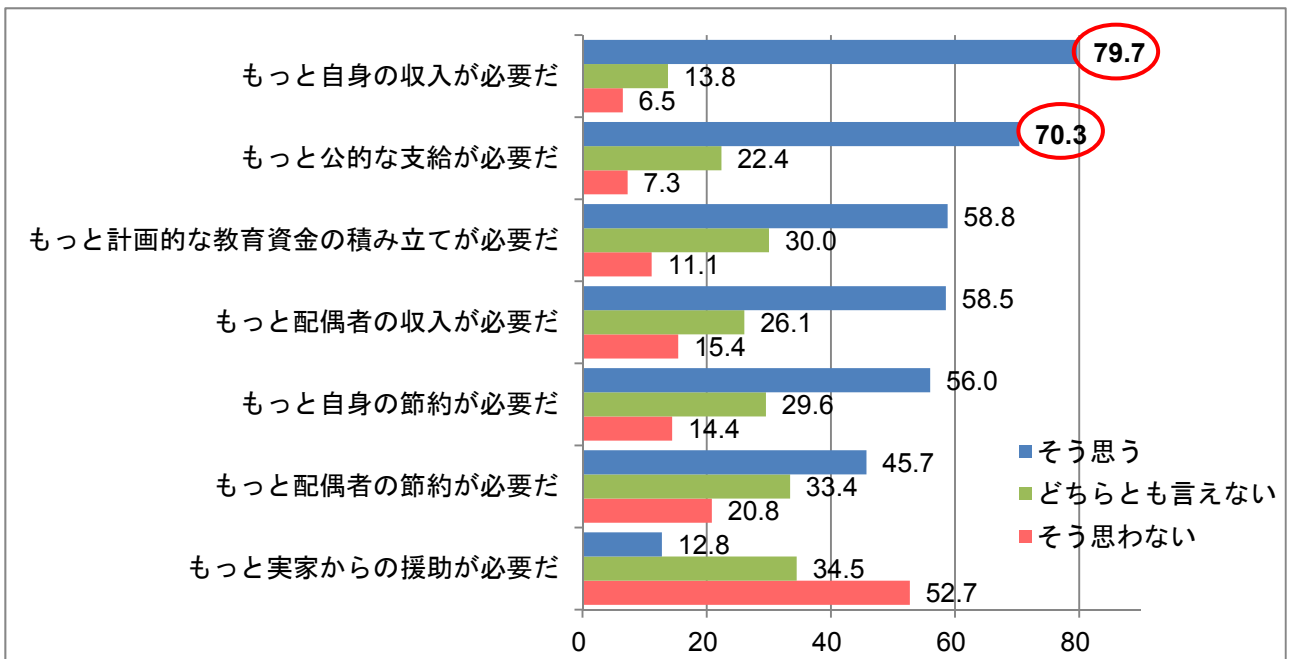
■子育てにおいて最も負担が大きいもの（複数回答）（%）



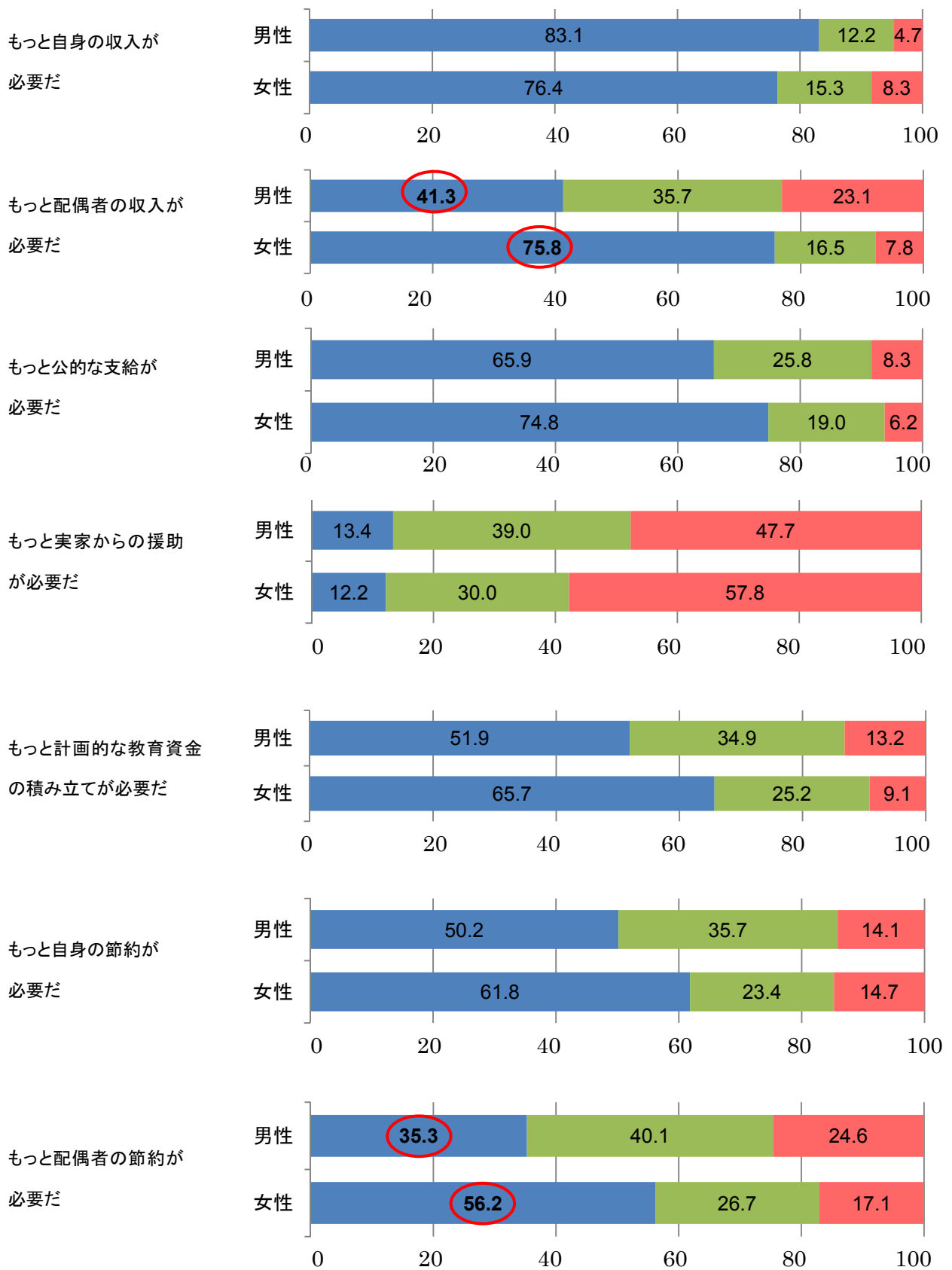
■子育てにおいて足りないと感じる金額（月額）

	足りている	~5千円 (%)	~1万円 (%)	~2万円 (%)	~3万円 (%)	~5万円 (%)	~10万円 (%)	~20万円 (%)	20万円超 (%)	平均金額 (円)
全体	33.3	7.7	9.1	13.1	13.7	14.9	6.2	0.7	1.4	27,097

■子育て費用を確保するために必要なもの（%）



■ 子育て費用を確保するために必要なもの(男女別) (%)



2. 「イクメン」に対する意識

※「2. 「イクメン」に対する意識」調査（P11～P18）については、現在、育児期間（0～6歳児）の子どもがいない人には、当時の育児を振り返って回答いただいています。

(1) 「イクメン評価」

**20代・30代の3人に2人が「夫はイクメン」と評価！？
育児の男女平等が浸透か！？妻は夫に対して高評価！**

- 子どもがいる男性に、「ご自身がイクメンかどうか」聞いてみました。
- 「イクメンだと思う」「どちらかというイクメンだと思う」の合計は48.5%となり、約半数の男性が自分のことを「イクメン」と自負しているようです。
- 一方、子どもがいる女性に、「夫がイクメンかどうか」を聞いてみると、51.8%が「イクメンだと思う」「どちらかというイクメンだと思う」と回答しており、妻の方が、夫をイクメンだとみていることがわかりました。
- 特に20代・30代の女性については、3人に2人（64.0%）が「イクメンだと思う」「どちらかというイクメンだと思う」と回答しており、若い世代ほど、育児の男女平等が浸透していることがわかります。

■イクメン評価（男女別）

	全体	イクメンだと思う	どちらかというイクメンだと思う	どちらかというイクメンだとは思わない	イクメンだとは思わない
全体	1032（人）	104	413	290	225
	100.0（%）	10.1	40.0	28.1	21.8
男性	516（人）	38	212	182	84
	100.0（%）	7.4	41.1	35.3	16.3
女性	516（人）	66	201	108	141
	100.0（%）	12.8	39.0	20.9	27.3

男性：「自身がイクメンだと思う」の48.5%は、「イクメンだと思う（7.4%）と「どちらかというイクメンだと思う（41.1%）」の合計
 女性：「夫がイクメンだと思う」の51.8%は、「イクメンだと思う（12.8%）と「どちらかというイクメンだと思う（39.0%）」の合計

■イクメン評価（年代別）

		全体	イクメンだと思 う	どちらかとい うとイクメン だと思 う	どちらかとい うとイクメン だとは思わな い	イクメンだと思 わな い
男性	20代	129(人)	12	68	40	9
		100.0(%)	9.3	52.7	31.0	7.0
	30代	129(人)	9	66	39	15
		100.0(%)	7.0	51.2	30.2	11.6
	40代	129(人)	9	46	48	26
		100.0(%)	7.0	35.7	37.2	20.2
	50代	129(人)	8	32	55	34
		100.0(%)	6.2	24.8	42.6	26.4
女性	20代	129(人)	24	60	21	24
		100.0(%)	18.6	46.5	16.3	18.6
	30代	129(人)	21	60	21	27
		100.0(%)	16.3	46.5	16.3	20.9
	40代	129(人)	14	45	31	39
		100.0(%)	10.9	34.9	24.0	30.2
	50代	129(人)	7	36	35	51
		100.0(%)	5.4	27.9	27.1	39.5

20代・30代の女性は合計258人。このうち「イクメンだと思（20代：24人・30代：21人）」「どちらかとい
うとイクメンだと思（20代：60人・30代：60人）」の合計は165人（64.0%）

2. 「イクメン」に対する意識

(2) 「イクメン」の現実

**「イクメン」評価には男女間に価値観のギャップあり！
女性が考えるNG行動は「やりたいことだけ、やりたいときだけ」！**

- 男性が「自分はイクメンである」、女性が「夫はイクメンである」と回答した人の理由をみると、男女ともに「子どもの入浴やおむつ替え、夜泣きの対応ができる」が最も多くなりました。(男性 53.6%、女性 51.7%)

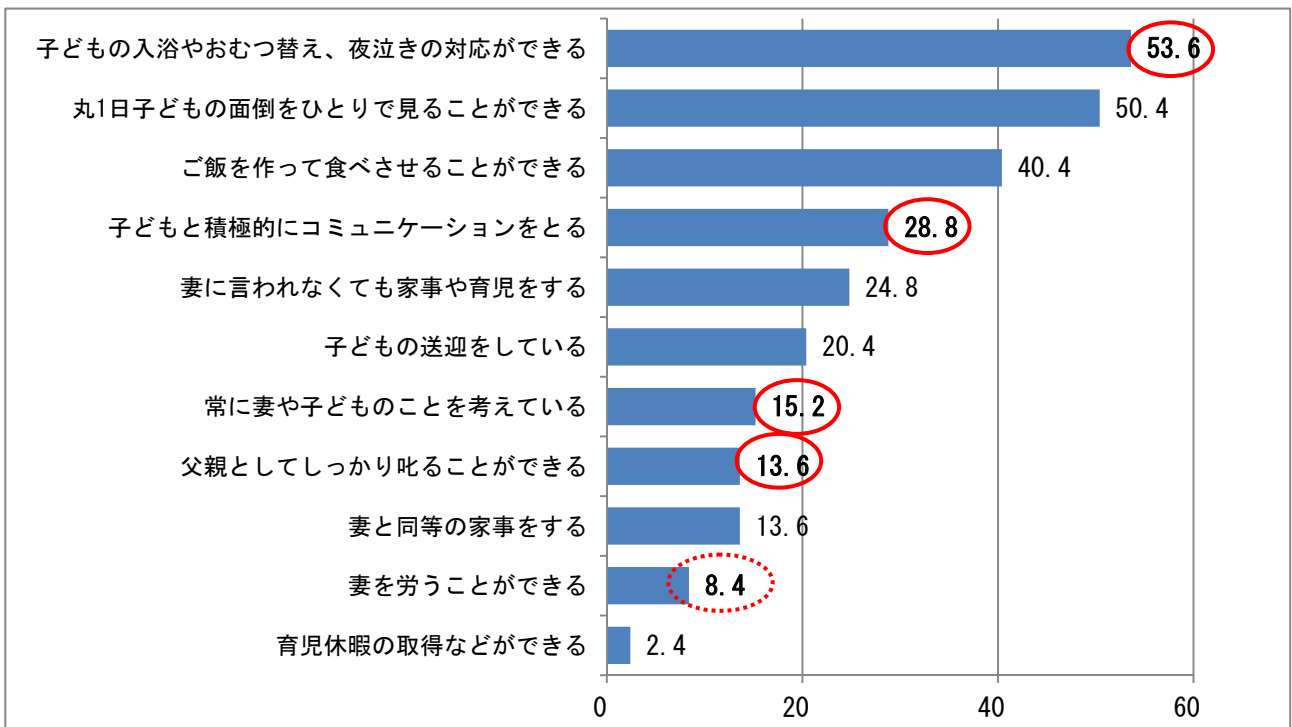
- そのほかの理由をみると、特に男性は「丸一日子どもの面倒をひとりで見ることが出来る」「ご飯を作って食べさせることができる」「子どもの送迎をしている」など具体的に行動することこそ「イクメン」と考える傾向が伺えます。

- 一方、理由を男女で比較してみると、「子どもと積極的にコミュニケーションをとる(男性 28.8%⇔女性 47.6%)」については、実に 18.8pt のギャップがあることがわかりました。このほか「常に妻や子どものことを考えている(男性 15.2%⇔女性 17.6%)」や「父親としてしっかりと叱ることが出来る(男性 13.6%⇔女性 16.1%)」についても、女性は男性よりも多くなっており、「イクメン」判定にあたり、女性は、父親としての意識や役割発揮を重要視していることがわかりました。

- また、「『イクメン』ではない」要因について、男女間ギャップをみると、男性が要因としてあげる「ご飯を作らない、または作るが片付けはしない」は、男性 28.9%に対し女性 15.3%と、妻はあまり重要視していないことがわかりました。このほか「子どもより自分のことを優先する(男性 12.4%⇔女性 40.6%)」「妻に言われないと家事や育児をしない(男性 8.3%⇔女性 28.5%)」にも大きなギャップが生じており、妻にとっては、「やりたいことだけ、やりたいときだけ」と気ままに育児をする夫に対して「『イクメン』ではない」という烙印を押すようです。

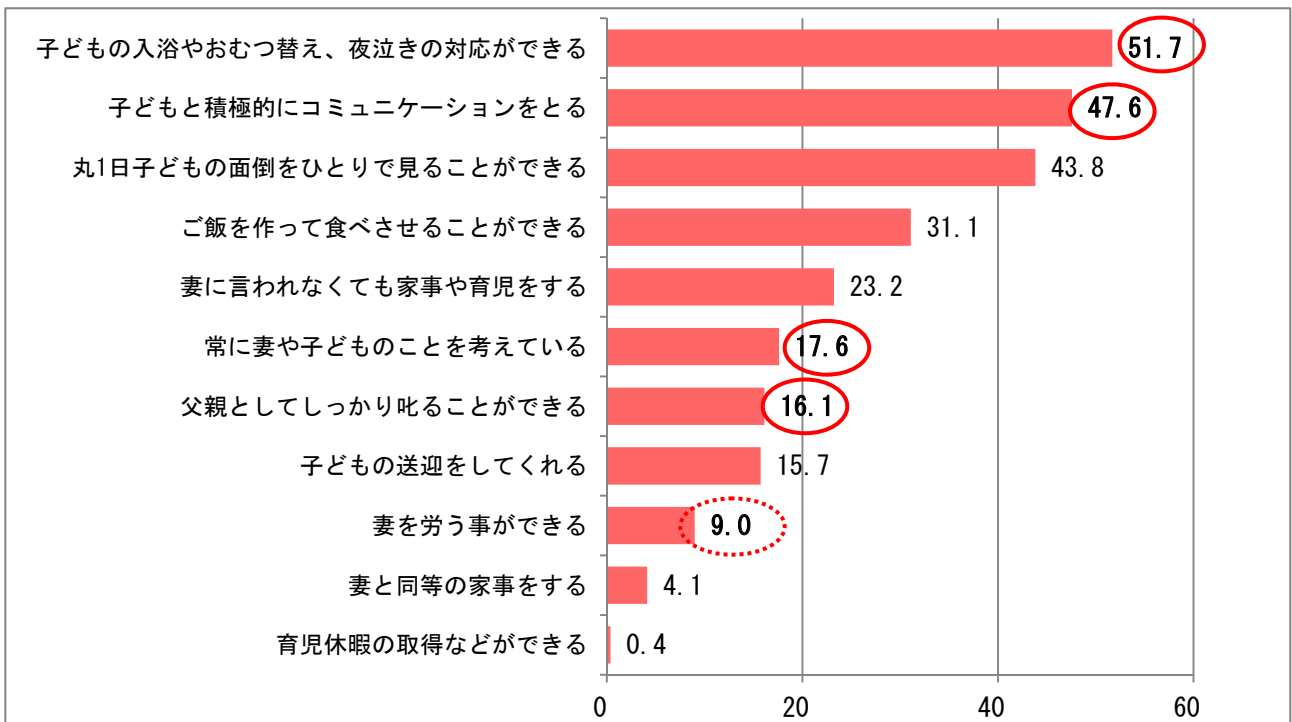
■男性が「自分はイクメンである」と回答した理由（複数回答）

(%)



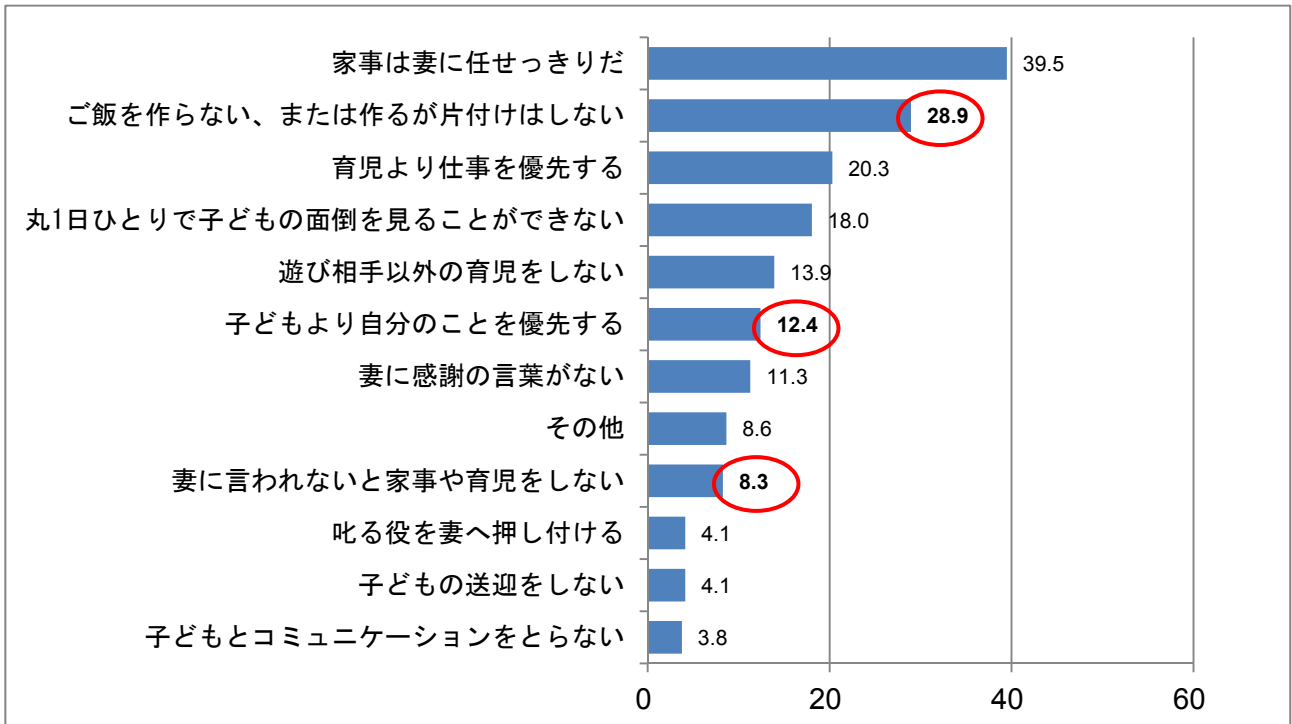
■女性が「夫はイクメンである」と回答した理由（複数回答）

(%)



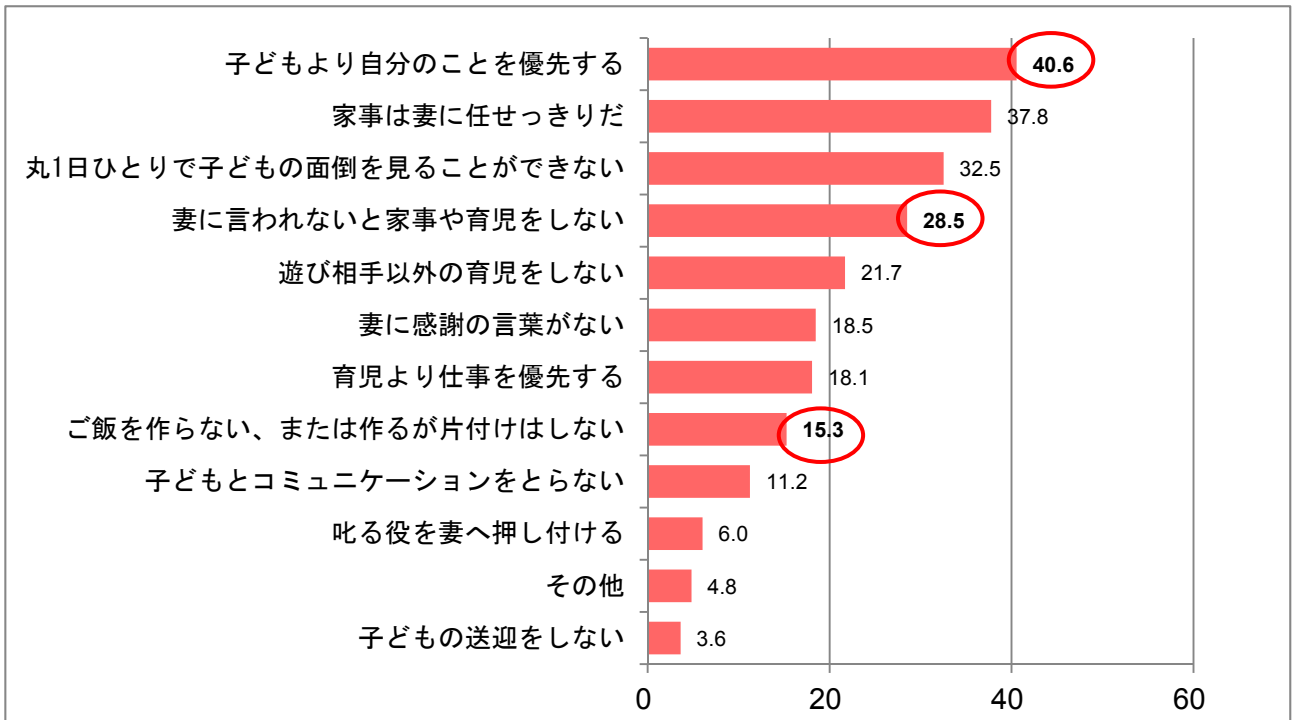
■男性が「自分はイクメンではない」と回答した理由（複数回答）

(%)



■女性が「夫はイクメンではない」と回答した理由（複数回答）

(%)



2. 「イクメン」に対する意識

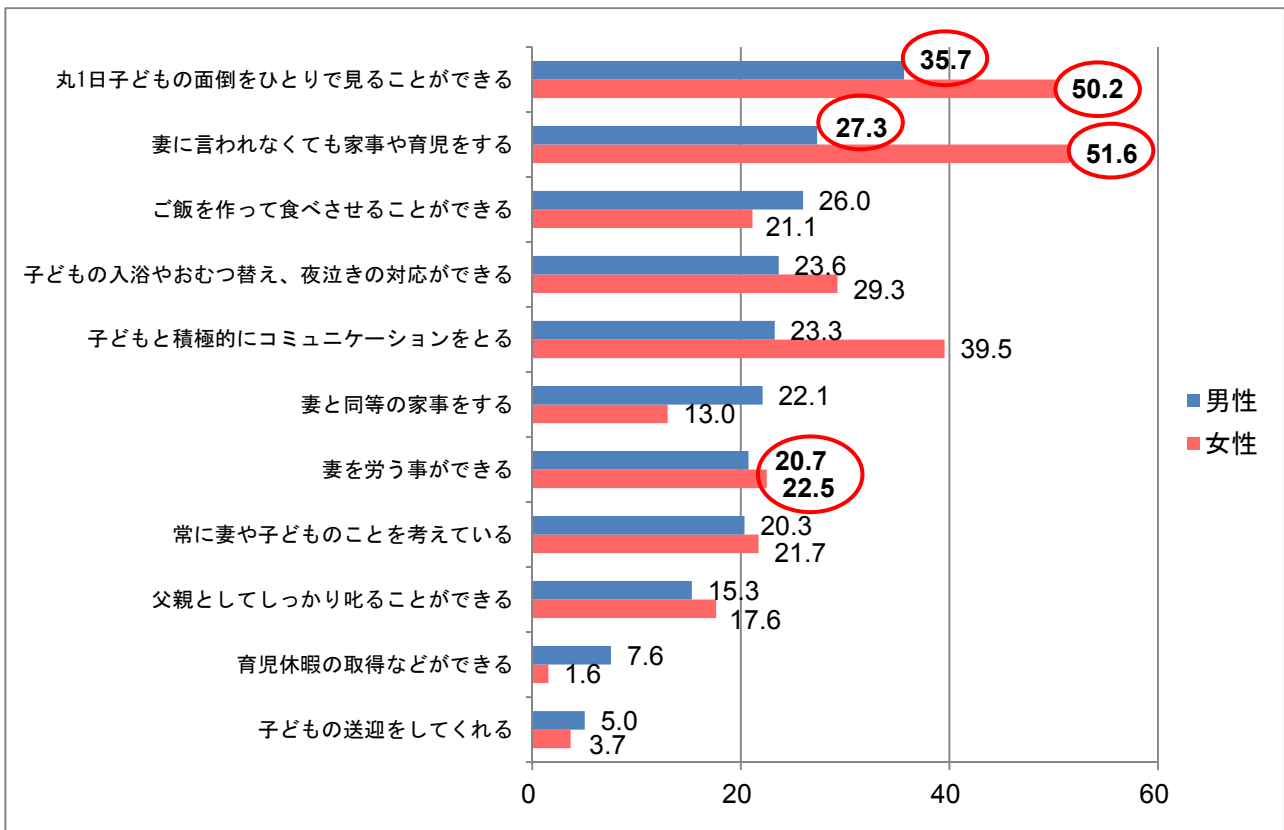
(3) 「理想のイクメン」

**「理想のイクメン」にも男女のギャップ！
妻の理想は“押しつけイクメン”ではなく、“ナチュラル イクメン”！**

- 続いて、「理想のイクメンはどのような父親なのか」を聞いてみました。
- 男性では、「丸一日子どもの面倒をひとりで見ることができる」が35.7%とトップであるものの、ほかの回答との大きな差はなく、全体的に男性は「理想のイクメン」のイメージが定まっていない結果となりました。
- 一方、女性では「妻に言われなくても家事や育児をする」と「丸一日子どもの面倒をひとりで見ることができる」が過半数を超えています。特に「妻に言われなくても家事や育児をする」については、男性は27.3%に留まっており、「理想のイクメン」でも男女間に大きなギャップが生じました。
- また、「妻を労うことができる」は「理想のイクメン」では男女とも2割を超えているにもかかわらず、実際に妻を労っている夫は1割にも満たない結果となっています（P14参照）。理想と現実の間にも、ギャップがあることがわかりました。
- 女性は「やってあげる」といういわゆる“押しつけイクメン”ではなく、口には出さなくても自然と「家事・育児」に参加する“ナチュラル イクメン”を理想の「イクメン」として求めているようです。

■ 理想のイクメンはどのような父親か（複数回答）

(%)



2. 「イクメン」に対する意識

(4) 育児の対価に対する男女の意識

**「育児の対価」は年収約237.5万円
なんと男性の約11%が「育児の対価」を「0円」と回答！！**

- 育児に対して対価がもらえたとしたら年収ベースでいくらになるかを聞いたところ、全体の平均額は約237.5万円となりました。
- 男女別では、男性236.2万円、女性238.9万円と平均額に大きな差はみられなかったものの、男性のうち、「育児の対価を0円」と答えた人は実に全体の11.5%に上り、女性の3.3%と大きな差がみられました。また、「0」円と回答した男性のイクメン自己評価をみると、66.1%が自身を「イクメンだと思わない」と評価しており、日ごろの育児への意識や協力度合いの低さから育児の大変さが理解できず、「0円」の回答につながっているのかもしれませんが。
- 一方、500万円より高い年収を回答した人では、男性が8.4%と女性の3.7%を大きく上回っており、育児を高く評価している男性の姿も垣間見られました。

■育児（0～6歳児）に給与がもらえたとすると年収はいくらか

	0円	～10万円 (%)	～50万円 (%)	～100万円 (%)	～300万円 (%)	～500万円 (%)	～1000万円 未満	全体平均 金額（万円）
全体	7.4	9.1	2.9	16.8	38.2	19.7	6.0	237.5
男性	11.5	10.4	4.1	16.8	28.6	20.2	8.4	236.2
女性	3.3	7.8	1.6	16.7	47.8	19.2	3.7	238.9

■「0円」と回答した男性のイクメン自己評価 (%)

	イクメンだと思う	イクメンだと思わない
「0円」と回答した男性	33.9	66.1

～チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●「育児の対価」について

男女とも、「育児の対価」の平均金額は240万円程度で、大きな差はありません。単純比較はできませんが、これは保育士の平均給与との比較ではやや低いです。一方、男女の回答の分布は大きく違います。0円との評価が、女性は3.3%なのに対し男性は11.5%。逆に、500万円以上との評価は、女性の3.7%に対し男性は8.4%と、男性の評価は両極端に偏っています。「イクメン」増加の裏で、男性の間に育児労働を軽んじる風潮も根強く残っている可能性が伺えます。

3. 子育ての悩みと相談したい有名人ランキング

(1) 子育ての苦勞と悩み

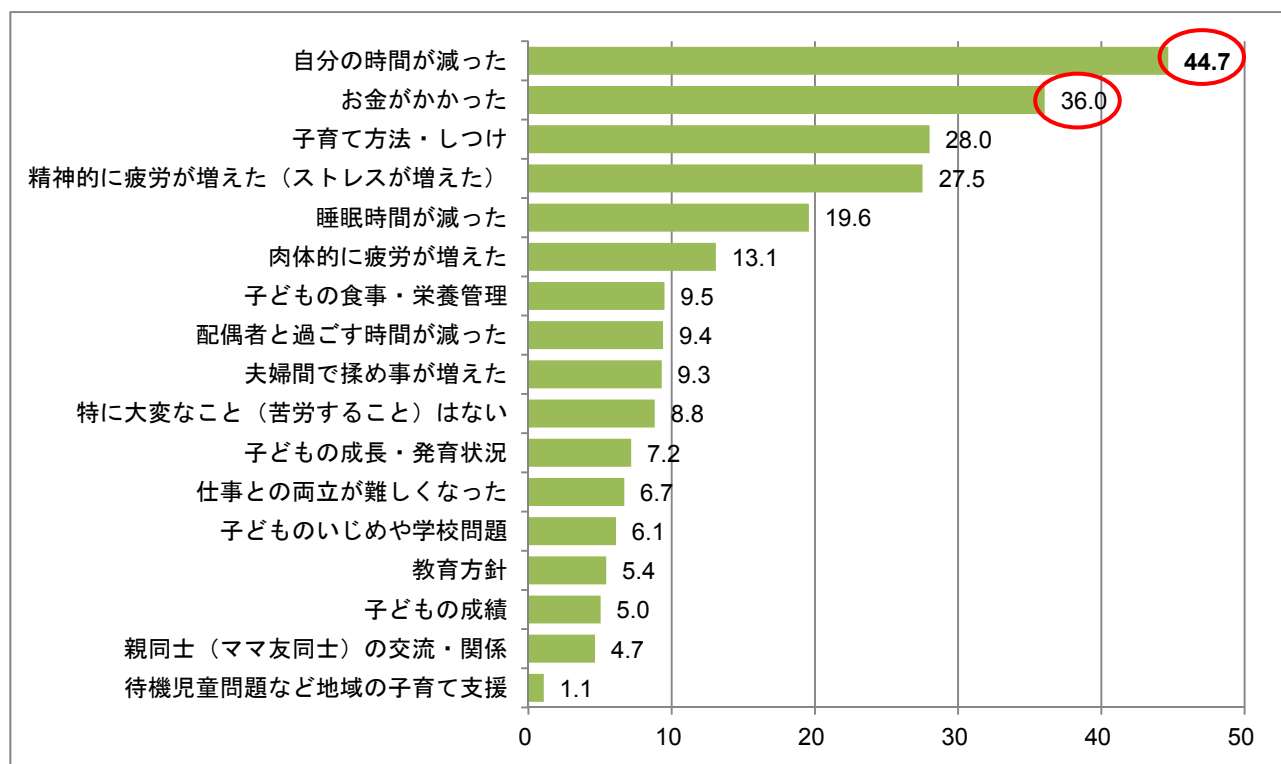
子育てで大変なこと。女性は「精神的疲労」が男性の2倍！
男性は妻しか頼れない！？女性の悩みは実母やママ友へ

○「子育てで大変なこと」について聞いてみました。全体では、「自分の時間が減った」がトップの44.7%、続いて「お金がかかった」が36.0%となりました。

○男女別でみると、女性は「精神的な疲労が増えた」が37.4%にのぼっており、男性の17.6%と比べると、19.8ptのギャップがあります。

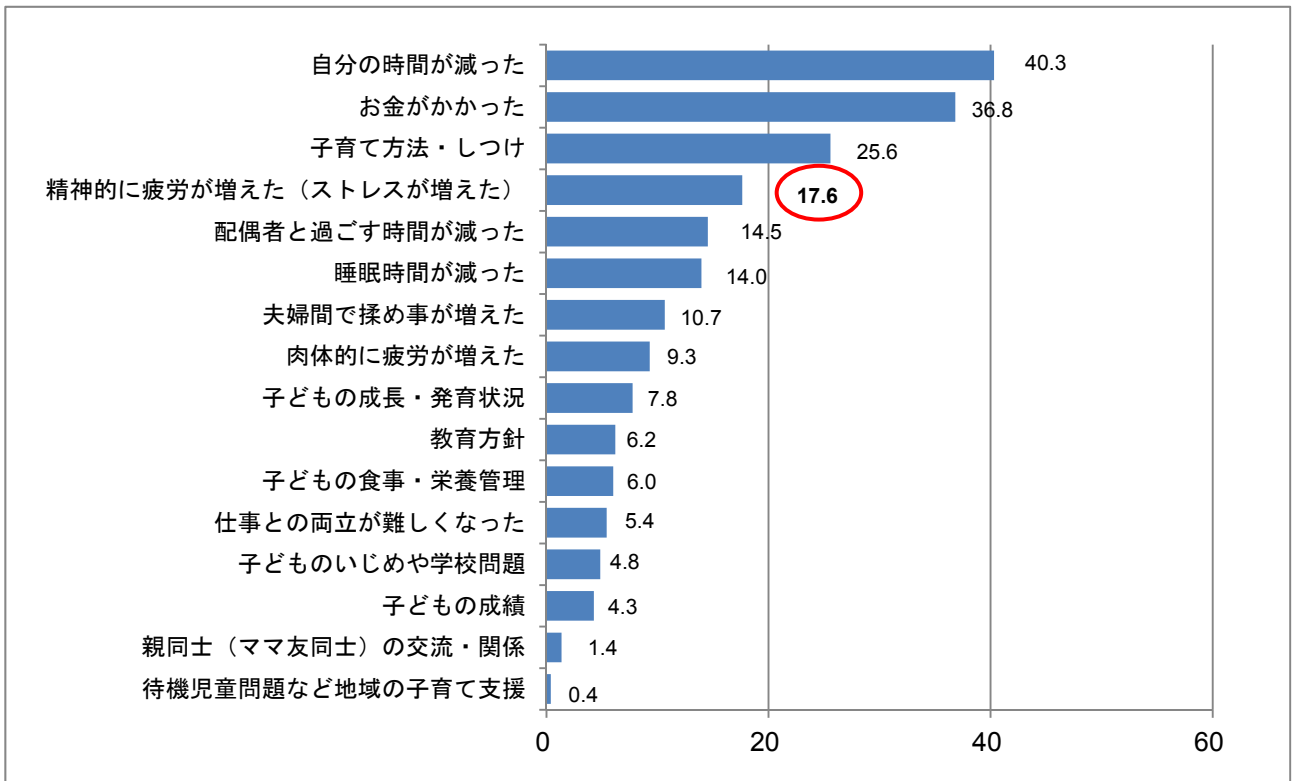
○相談相手は「配偶者」がもっとも多く、全体の66.7%。男女別では、男性は75.6%が「配偶者へ相談」と回答しました。一方、女性が「配偶者へ相談」と回答した割合は57.8%にとどまっており、「実母（60.7%）」「ママ友（48.1%）」など子育て経験者を頼りにしている様子が伺えます。

■子育てで大変なこと（苦勞すること）（複数回答）（%）



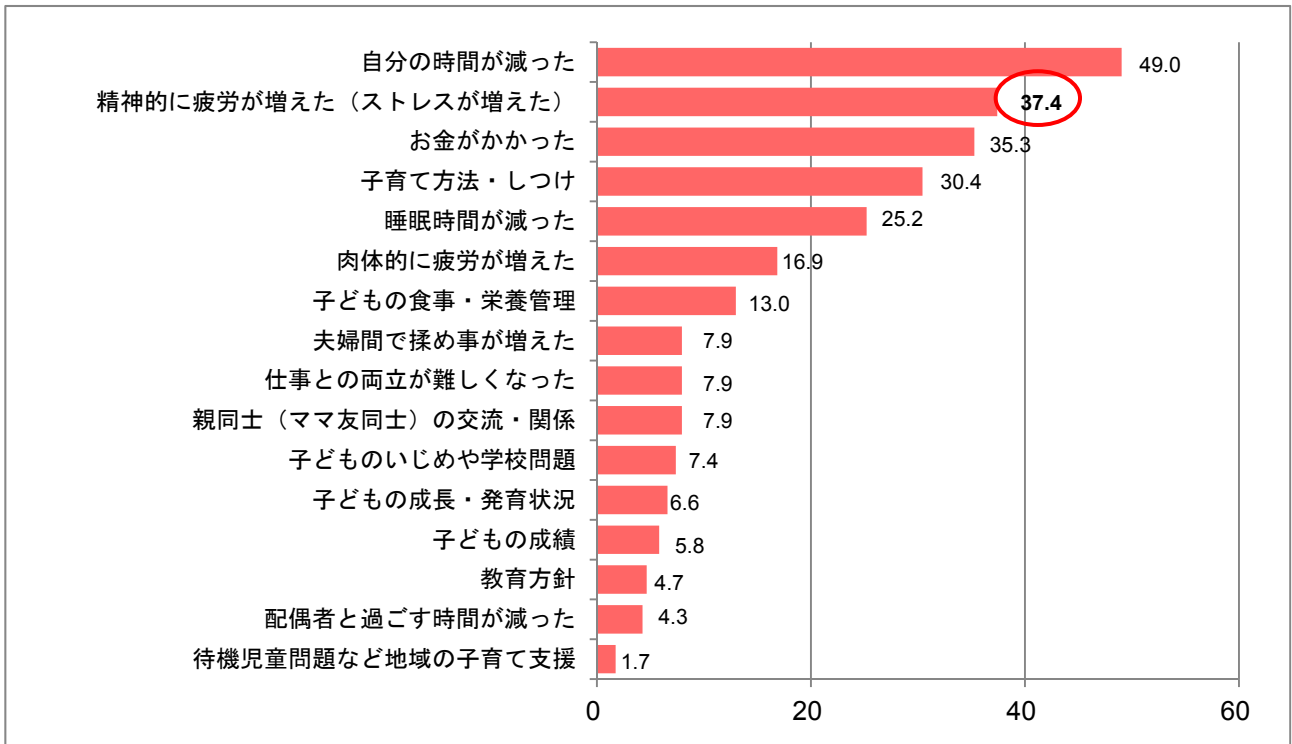
■男性にとって子育てで大変なこと(苦労すること)(複数回答)

(%)



■女性にとって子育てで大変なこと(苦労すること)(複数回答)

(%)



■子育ての相談や参考に使っている相手ランキング(複数回答)

(%)

	全体		男性		女性	
第1位	配偶者	66.7	配偶者	75.6	実母	60.7
第2位	実母	45.7	実母	30.8	配偶者	57.8
第3位	ママ友	26.1	仕事(会社)の先輩や同僚	14.1	ママ友	48.1
第4位	義母	10.4	義母	11.2	ママ友以外の友人	10.7
第5位	インターネットサイト (まとめサイト等)	10.1	インターネットサイト (まとめサイト等)	9.7	インターネットサイト (まとめサイト等)	10.5
第6位	仕事(会社)の先輩や同僚	9.8	実父	8.7	義母	9.5
第7位	実父	6.1	パパ友	7.0	保育園や学校の先生	7.2
第8位	ママ友以外の友人	5.9	ママ友	4.1	その他	6.0
第9位	保育園や学校の先生	5.3	保育園や学校の先生	3.5	教育本、雑誌	5.6
第10位	その他	4.7	パパ友以外の友人	3.1	仕事(会社)の先輩や同僚	5.4

3. 子育ての悩みと相談したい有名人ランキング

(2) 悩みを相談したい有名人ランキング

**必要なのは頼れる相手！
子育ての悩みを相談したい有名人、第1位は「北斗晶さん」**

- 「子育てに悩んだ時に相談したい有名人」を聞いてみました。
- 第1位は「北斗晶さん」、第2位は「つるの剛士さん」、第3位は教育評論家の「尾木直樹さん（尾木ママ）」となりました。
- 第1位の「北斗晶さん」を選んだ理由としては、「頼りになるイメージがある」が多く、テレビを通して伝わる「家族を支える頼りがいのある母の姿」が特に女性から高い共感を得ています。
- 第2位の「つるの剛士さん」を選んだ理由としては、「イクメンのイメージがあるから」が男女ともに圧倒的に高く、次いで「仕事と家庭を両立している」「子育てに参加している」という理由が続きました。子だくさんで子煩悩のイメージが完全に定着しているようです。
- 子育てに悩んだ時には、「頼りになる」ことはもちろん「仕事と育児の両立」を実現している人からのアドバイスが欲しいということなのかもしれませんね。
- 第3位の「尾木ママ」こと「尾木直樹さん」は、教育評論家の立場から、「的確なアドバイスをくれそう」という点が支持を集めて、ランクインとなりました。

■悩みを相談したい有名人 TOP10 (％)

第1位	北斗 晶	14.2
第2位	つるの剛士	12.3
第3位	尾木 直樹（尾木ママ）	11.9
第4位	木下 優樹菜	8.6
第5位	木村 佳乃	4.3
第6位	哀川 翔	3.1
第6位	井ノ原 快彦（V6）	3.1
第8位	くわばたりえ	2.9
第8位	ヒロミ	2.9
第10位	小倉 優子	2.3

【男性が相談したい有名人 TOP5】 (%)

第1位	つるの剛士	14.3
第2位	尾木 直樹 (尾木ママ)	11.1
第3位	哀川 翔	5.5
第4位	北斗 晶	5.1
第5位	関根 勤	4.6

【女性が相談したい有名人 TOP5】 (%)

第1位	北斗 晶	20.9
第2位	尾木 直樹 (尾木ママ)	12.5
第3位	木下 優樹菜	12.2
第4位	つるの剛士	10.8
第5位	木村 佳乃	5.4

■ 相談相手に選んだ理由(単一回答)

(%)

	頼りに ある イメージが	イクメンの イメージが ある	イクメンの イメージが ある	仕事を家庭 を両立して いる	子育てに 参加 している	子育てに 豊かそう	子育て経験 が豊富そう	子どもの気 持ちはわか っている	子どもの気 持ちはわか っている	的確なアド バイスをく れそう	すべてを受 け入れてく れそう	すべてを受 け入れてく れそう	慰めて もらえそう	教育者 として有名	SNSで参考 にしている	なんとなく	その他
北斗 晶																	
全体	35.6	-	13.7	-	4.1	11.0	27.4	4.1	1.4	-	-	-	-	-	-	-	2.7
男性	45.5	-	18.2	-	9.1	9.1	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	33.9	-	12.9	-	3.2	11.3	29.0	4.8	1.6	-	-	-	-	-	-	-	3.2
つるの剛士																	
全体	1.6	41.3	15.9	15.9	9.5	6.3	1.6	3.2	1.6	-	-	-	-	-	-	-	3.2
男性	3.2	48.4	16.1	12.9	9.7	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.2
女性	-	34.4	15.6	18.8	9.4	6.3	3.1	6.3	3.1	-	-	-	-	-	-	-	3.1
尾木 直樹 (尾木ママ)																	
全体	11.5	-	-	-	1.6	13.1	57.4	8.2	-	8.2	-	-	-	-	-	-	-
男性	12.5	-	-	-	4.2	12.5	58.3	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-
女性	10.8	-	-	-	-	13.5	56.8	13.5	-	5.4	-	-	-	-	-	-	-
木下 優樹菜																	
全体	20.5	-	38.6	13.6	-	4.5	13.6	-	-	-	-	-	-	2.3	4.5	2.3	-
男性	37.5	-	25.0	25.0	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	16.7	-	41.7	11.1	-	5.6	13.9	-	-	-	-	-	-	2.8	5.6	2.8	-
木村 佳乃																	
全体	18.2	-	50.0	9.1	-	-	9.1	9.1	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	16.7	-	50.0	-	-	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	18.8	-	50.0	12.5	-	-	6.3	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
哀川 翔																	
全体	62.5	-	6.3	12.5	-	6.3	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	66.7	-	8.3	8.3	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	50.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
井ノ原 快彦 (V6)																	
全体	12.5	12.5	18.8	12.5	-	-	18.8	6.3	6.3	-	-	-	-	-	6.3	6.3	-
男性	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-
女性	10.0	10.0	30.0	20.0	-	-	20.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
くわばたりえ																	
全体	20.0	-	-	6.7	20.0	-	20.0	20.0	6.7	-	-	-	-	-	-	-	6.7
男性	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	25.0	-	-	8.3	-	-	25.0	25.0	8.3	-	-	-	-	-	-	-	8.3
ヒロミ																	
全体	40.0	-	6.7	6.7	-	6.7	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	44.4	-	11.1	-	-	-	44.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	33.3	-	-	16.7	-	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小倉 優子																	
全体	-	-	41.7	25.0	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	8.3
男性	-	-	40.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
女性	-	-	42.9	14.3	-	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3

4. 子育て中の働き方に関する意識

(1) 育児休暇の取得状況と満足度

取得期間に課題！？
男性の育児休暇の取得満足度は女性より約 22pt も低い結果に！

- 育児休暇の取得状況について聞いてみました。
- 「育児にもっと参画すべきだ」と考える男性は 49.2%と約半数を占めるものの、「育児休暇を取るべきだ」は 38.5%、「育児休暇を取得したことがある」は 25.6%にとどまっています。
- 育児休暇の取得状況を年代別でみると、20代男性の 32.6%、30代男性の 31.0%に比べて、40代以上は 19.4%と世代間ギャップが顕著となりました。1991年には「育児休業法」により男性の育児休業制度が導入されていますが、2000年以降「ダイバーシティ推進」や「イクメン」が浸透しはじめ、風土の醸成が図られてきたことが、制度の活用を後押ししているものと思われます。
- 厚生労働省「平成 28 年度雇用均等基本調査」では、育児休業制度がある事業所の割合は、95.3%（事業所規模 30 人以上）となり年々増加しています。また、男性の育児休業も過去 4 年連続して上昇傾向にあります。
しかし、今回の調査において、男性で育児休暇を取得した人の取得日数をみると、「1 日以上 1 週間未満」が、56.8%と過半数を占めており、1 カ月未満までを含めると 72.7%となり、短期間の取得にとどまっています。制度が整い利用者は増えているものの、長期間の取得者は増えていないことがうかがえます。
- 取得期間の満足度を男女で比較すると、女性は自身が取得した育児休暇に対して、56.9%の人が満足している一方、男性は 34.8%と、男性の方が満足度が約 22pt 低い結果となっています。育児休暇取得日数が短いことも、満足度を引き下げている要因なのかもしれません。

■ 子どもが生まれた後の働き方について

【育児にもっと参画すべきだ】

(%)

		そう思う	どちらともいえない	そう思わない
全体	1,032(人)	53.4	40.3	6.3
男性	516(人)	49.2	43.2	7.5
女性	516(人)	57.6	37.4	5.1

【育児休暇を取るべきだ】

(%)

		そう思う	どちらともいえない	そう思わない
全体	1,032(人)	40.1	41.8	18.1
男性	516(人)	38.5	41.9	19.6
女性	516(人)	41.7	41.7	16.6

■育児休暇の取得状況（男女別）

(%)

	取得した	取得していない	
			うち専業主婦(主夫)
全体	24.0	76.0	20.9
男性	25.6	74.4	0.2
女性	22.5	77.5	41.7

■男性の育児休暇取得状況（年代別）

(%)

	取得した	取得していない	
			うち専業主婦(主夫)
20代	32.6	67.4	0.0
30代	31.0	69.0	0.0
40～50代	19.4	80.2	0.4

■育児休暇取得期間（男女別）

(%)

	1日以上1週間未満	1週間以上2週間未満	2週間以上1ヵ月未満	1ヶ月以上3ヵ月未満	3ヶ月以上半年未満	半年以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上
男性	56.8	8.3	7.6	9.8	8.3	3.0	2.3	3.8
女性	2.6	0.0	2.6	9.5	11.2	36.2	31.9	6.0

1日以上1ヵ月未満は、**72.7%**

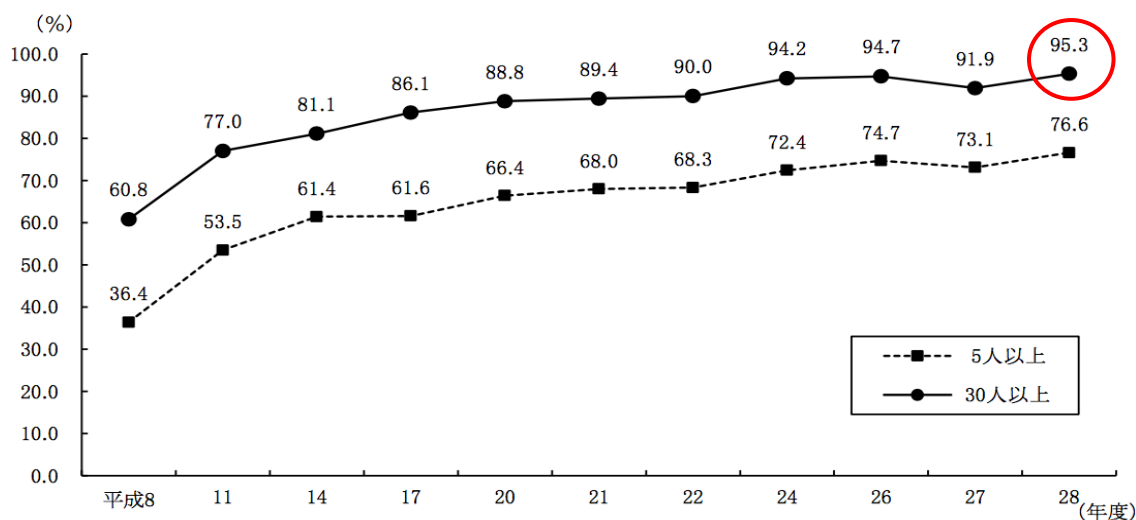
■育児休暇取得者の取得期間に対する満足度(男女別)

(%)

		満足している		どちらともいえない		満足していない	
		人数	%	人数	%	人数	%
男性	全体	46	34.8	49	37.1	37	28.0
	1日以上1週間未満	23	30.7	28	37.3	24	32.0
	1週間以上2週間未満	5	45.5	3	27.3	3	27.3
	2週間以上1ヶ月未満	3	30.0	3	30.0	4	40.0
	1ヶ月以上3ヶ月未満	4	30.8	8	61.5	1	7.7
	3ヶ月以上半年未満	5	45.5	5	45.5	1	9.1
	半年以上1年未満	2	50.0	1	25.0	1	25.0
	1年以上2年未満	2	66.7	0	0.0	1	33.3
	2年以上	2	40.0	1	20.0	2	40.0
女性	全体	66	56.9	24	20.7	26	22.4
	1日以上1週間未満	1	33.3	1	33.3	1	33.3
	1週間以上2週間未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2週間以上1ヶ月未満	1	33.3	1	33.3	1	33.3
	1ヶ月以上3ヶ月未満	4	36.4	3	27.3	4	36.4
	3ヶ月以上半年未満	6	46.2	3	23.1	4	30.8
	半年以上1年未満	27	64.3	6	14.3	9	21.4
	1年以上2年未満	22	59.5	8	21.6	7	18.9
	2年以上	5	71.4	2	28.6	0	0.0

※参考：厚生労働省「平成28年度雇用均等基本調査」

【育児休業制度の規定あり事業所割合の推移】



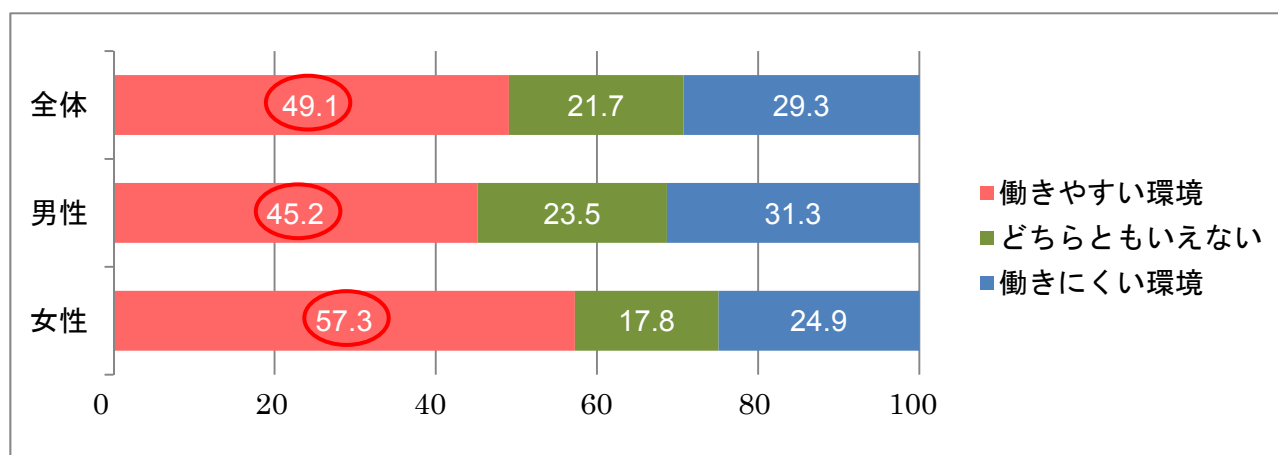
4. 子育て中の働き方に関する意識

(2) 両立支援と職場環境

子育てしながら働きやすい職場づくりには、
「休暇を取りやすい職場の雰囲気」が重要

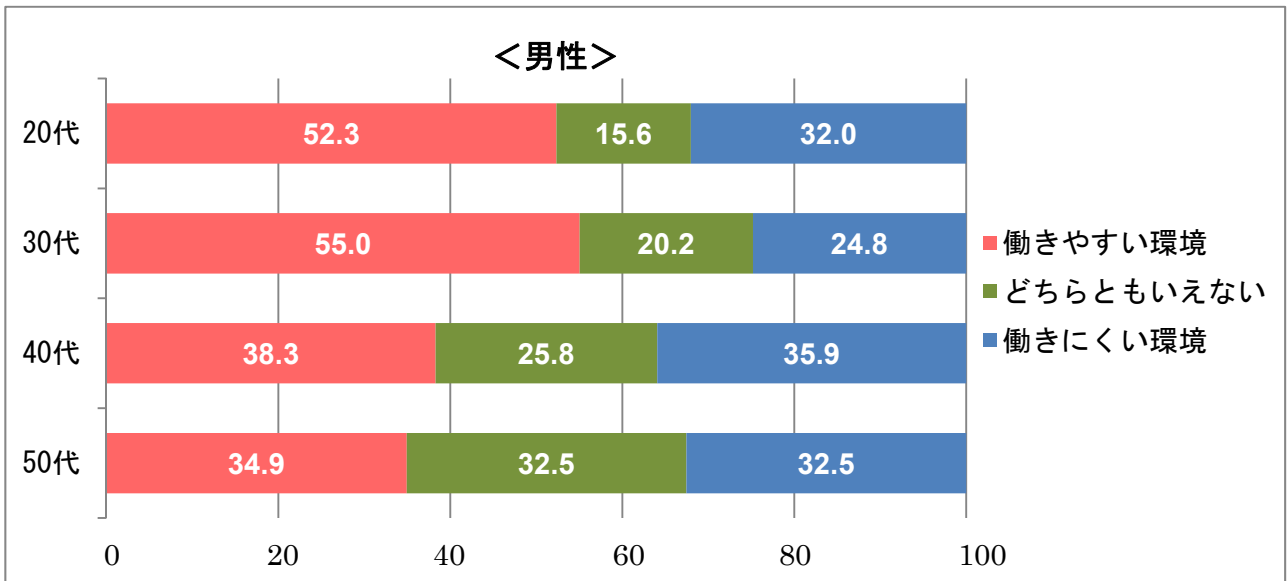
- 就業中の人に「子育てをしながら働きやすい環境かどうか」を聞いてみました。
- 男性の45.2%、女性の57.3%、全体では49.1%が、自身の職場が「子育てをしながら働きやすい職場である」と回答しています。
- 年代別で見ると、20代と30代の過半数が「働きやすい」と回答しており、20代の女性は72.7%が働きやすい職場だと回答しました。一方、40代と50代は「働きやすい」という回答が半数を下回っており、女性の20代と50代を比較すると、その差は24.3ptと年代のギャップが顕著に出了ました。このことから、子育てをしながら働くための、制度や環境が、着実に整ってきていることがわかります。
- 「子育てと両立して働くために必要だと思うこと」については、自分の職場が「働きやすい」「働きにくい」と回答した双方ともに、「休暇の取りやすい職場の雰囲気」を最重要視しています。また、20代・30代の若い世代では、「上司の理解が必要」という回答も多くみられます。やはり、子育てしながら働きやすい職場づくりには、周囲の理解やサポートが求められているようです。

■自身の職場は子育てしながら働きやすい環境か (％)

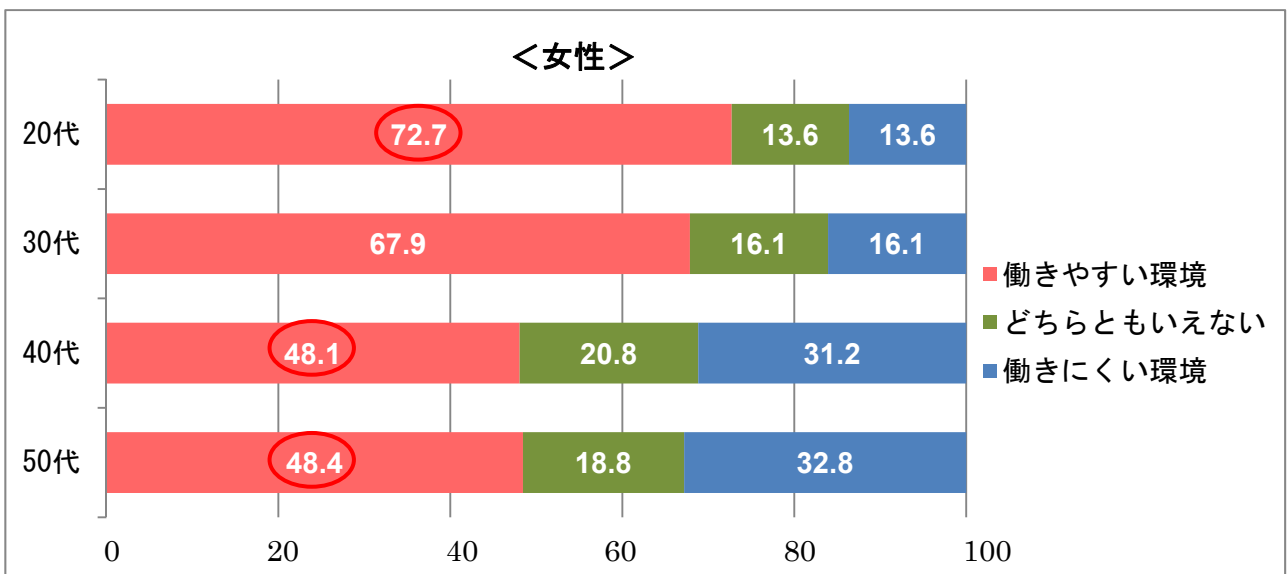


■自身の職場は子育てしながら働きやすい環境か（年代別）

(%)



(%)



■子育てと両立して働くために必要だと思うこと（自分の職場の働きやすさの回答別）

(%)

	自分の職場は働きやすいと思う	どちらともいえない	自分の職場は働きにくいと思う
休暇の取りやすい職場の雰囲気	68.3	54.6	62.7
時間のコントロールのしやすさ	39.6	33.1	30.9
育児や介護などで左右されない評価基準	14.9	12.9	8.6
上司の理解（イクボスの推進）	33.3	18.4	25.0
育児やイクメンに関する社内教育	5.7	8.6	5.9
女性に対するモチベーションアップのための社内研修	3.5	1.8	1.4
家事代行サービスの補助など家事と育児に対する補助	3.3	4.3	1.8
職場の在宅勤務制度の充実	7.6	8.0	11.4
職場からの認可保育園にかかる補助	3.5	2.5	5.5
遠隔地勤務制度の導入	1.9	1.2	0.5
職場における制度利用時の手続きの簡略化	2.7	3.1	5.5
企業内保育園	5.4	7.4	8.2
メンタルヘルスに関する予防や対策	3.8	2.5	4.5
働き方改革で業務の省力化	4.3	5.5	4.5
実家の家事や子育てへの協力	7.6	4.3	4.5
配偶者の家事や子育てへの協力	16.3	13.5	15.5
公的な支援・補助	12.5	14.7	20.5
生活資金（給与）	11.7	16.0	20.5
その他	0.0	2.5	0.9

■子育てと両立して働くために必要だと思うこと（年代別）

（％）

	20代	30代	40代	50代
休暇の取りやすい職場の雰囲気	71.8	69.0	61.5	59.6
時間のコントロールのしやすさ	34.3	41.5	38.9	26.8
育児や介護などで左右されない評価基準	16.9	10.9	11.5	14.9
上司の理解（イクボスの推進）	33.5	33.5	27.5	17.9
育児やイクメンに関する社内教育	9.3	4.8	2.9	5.1
女性に対するモチベーションアップのための社内研修	2.4	1.6	2.5	2.6
家事代行サービスの補助など家事と育児に対する補助	3.6	2.4	2.9	5.1
職場の在宅勤務制度の充実	8.5	10.5	9.4	11.5
職場からの認可保育園にかかる補助	8.5	3.6	2.9	3.8
遠隔地勤務制度の導入	0.0	1.2	0.8	2.6
職場における制度利用時の手続きの簡略化	2.8	2.8	3.7	5.1
企業内保育園	12.1	9.7	6.6	10.2
メンタルヘルスに関する予防や対策	1.2	4.4	4.1	3.8
働き方改革で業務の省力化	4.0	4.0	2.5	7.2
実家の家事や子育てへの協力	4.8	7.7	7.4	5.1
配偶者の家事や子育てへの協力	16.5	22.2	18.0	19.1
公的な支援・補助	13.7	15.3	15.2	17.9
生活資金（給与）	15.7	9.3	14.8	17.4
その他	0.4	0.0	1.6	1.3